

保坂助教が（独）農研機構で行った研究成果をまとめた論文が Nature Biotechnology 誌（5年間の平均impact factor 23.975）のBrief Communicationのセクションに掲載されることになりました。

この研究は微生物の休眠している遺伝子を目覚めさせて新たな抗生物質を発見するための技術開発に世界で初めて成功したものです。

この技法は、微生物からの新薬発見に向けた革新的技術であり、技術の汎用性を考えると、医学面に限らず農業、工業における微生物利用に大きな弾みをつけるものであり、学問上のインパクトのみならず、社会的インパクトも極めて大きい成果であると言われています。



写真 研究成果を発表する保坂助教